

「令和元年 とやま水土里フォーラム」の開催

富山県と富山県土地改良事業団体連合会との主催による「令和元年とやま水土里フォーラム」が、令和元年10月8日（水）黒部市国際文化センターコラーレを主会場に、土地改良関係者、県・市町村等 約580人が参加して開催されました。

主催者を代表して、山崎康至副知事、鹿熊正一県土連副会長から開会の挨拶があり、続いて来賓の森澤敏哉農林水産省北陸農政局長、中川忠昭富山県議会議長、大野久芳黒部市長の祝辞がありました。



次に県知事表彰があり、土地改良施設の維持管理や、多面的機能の発揮のための活動に取組み、他の模範となる団体および個人に対して「とやま水土里賞」が山崎副知事から授与されました。



受賞されたのは、次の2団体と2個人の方々です。おめでとうございます。

■団体

- ・大崎野用水組合（滑川市）
- ・山田新田用水地区委員会（南砺市）

■個人

- ・栃林 孝栄 氏（黒部市）
- ・石田 一雄 氏（立山町）

つづいて、とやま水土里賞の団体受賞者である、大崎野用水組合（発表者：浦田竹昭氏）と山田新田用水地区委員会（発表者：細川 哲氏）から事例発表が行われました。

次に基調講演に入り、藤井 聡氏（京都大学大学院工学研究科教授）から「農業農村と国土強靱化」と題し講演されました。1959年の伊勢湾台風、1995年の阪神・淡路大震災、2011年の東日本大震災等の想定外とも言える大規模自然災害の歴史をふり返ると、これまで様々な対策を講じてきたものの甚大な被害により長期間にわたる復旧・復興を繰り返してきました。これを避けるためには、とにかく人命を守り、また経済社会への被害が致命的なものにならず迅速に回復する「強さとしなやかさ」を備えた国土、経済社会システムを平時から構築するという発想に基づき継続的に取り組むことの重要性についてお話しがりました。



一方、会場1階エントランスでは新川管内の農産加工グループ等による展示・販売が、屋外では農業用コンクリート製品等の展示があり、大勢の来場者で賑わいました。



午後の現地研修では、愛本堰堤、十二貫野湖、災害復旧現場（魚津市東山）、生地の清水郡（生地魚の駅）をバス8台に分乗し研修を行い、全日程を終了しました。



愛本堰堤

十二貫野湖

災害復旧現場